縞

——その22——

松井源吾　編著

縞

——その22——

松井源吾　編著

賀乙

MR. GENGO MATSUI

BOAS FESTAS e FELIZ ANO NOVO

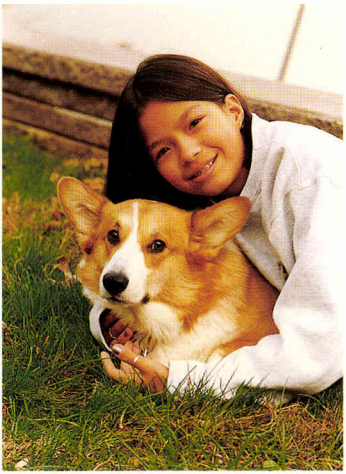
YOSHIKO · YASUHIRO AIDA

DEAR PROF. MATSUI
OUR KARLA MEI IS NOW ELEVEN!

和平 *PEACE* *PAIX* *PAZ* *سلام* *MIR*

Les, Saw-Teen & Karla Mei

Les Karla



All of our best wishes

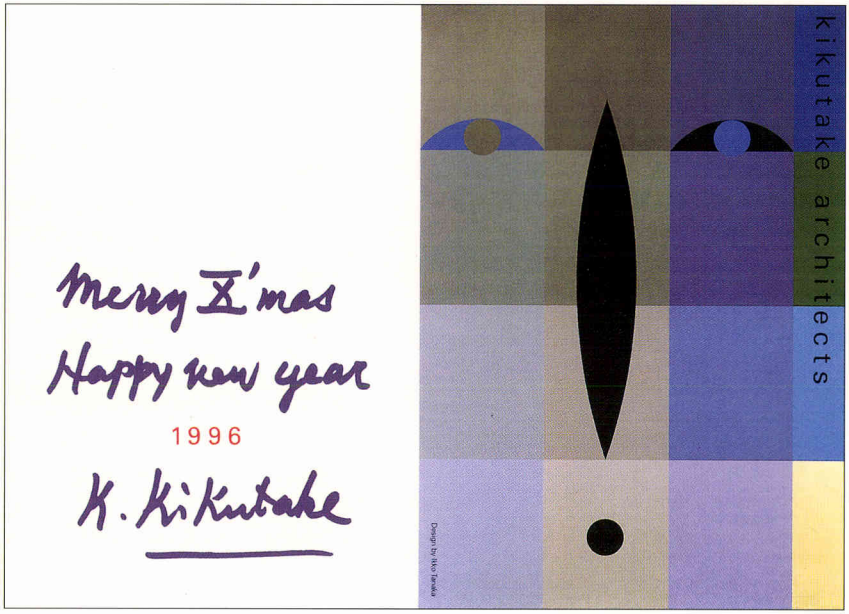
to you

and to those you love

Les Saw-Teen

Karla

ロバートソン氏より



松井源吾先生

ご全快をお祈りいたします。

業竹清訓

'95/12

SEPT '96

Anchorage Condominium

Dec '95

Season's Greetings

A Merry Christmas & A Happy New Year

お元気の事と存じます。
単身でシンガポールにいます。
先日は中川武教授が現場に来られました。
松井先生のお話に花が咲きました。
御結婚おめでとうございます。

杉山克己

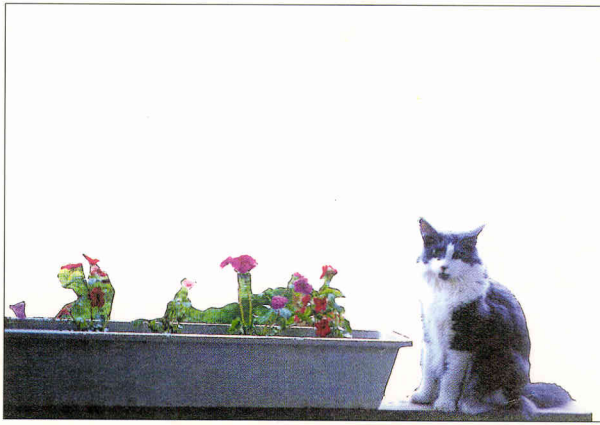
松井源吾 先生

We wish you the best
Holiday Seasons

岸本家 一同

Kiyo, Toshiko & Yuji Kishimoto

101 Hickory Ridge Ct., Central, SC 29630



都ホテル（94.12.31）

目　次

1.「中空スラブ設計要覧」出版記念パーティー …… 1

2. 大分県スポーツ公園メインスタジアムコンペ …… 8

3. 黒川紀章氏と公開対談 ……13

4. 第5回松井源吾賞授与 ……15

5. 菊竹さん工学博士に ……21

6. 病　院 ……24

7. 最近のアルバム ……26

8. 雑　記 ……36

9. 第6回松井源吾賞 ……48

10. 第7回松井源吾賞 ……54

11. 九州旅行 ……58

12. 1月3日 ……66

13. 最近のアルバム―その2― ……70

あいさつ

著者略歴

1. 「中空スラブ設計要覧」出版記念パーティー

――（1995.4.12 都ホテル）――

あいさつ

松　井

中空スラブ、はじめて実施してから、30年以上になる。こんなに長く続くとは思ってもみなかった。

中空管を作っている栗本鉄工の当時の担当課長、神谷さんが、これは何年位つづくでしょうかと、5年位かなと答えた。5年たって、まだ続いていますよと。

はじめて書いた中空スラブの本、とびらの所に、編集の尾崎さんが、中空管の長々と延びた写真を載せた、長くつづくようにと。

中空スラブのはじめの頃、竹中の研究所で実験してもらったことがある。当時の研究所長は先輩の箕面さんで、松井君も中空スラブで有名になったねと、もっと前からだと思ったが、あるいは、そうかなとも思った。

皇太子のお住いの建物、広い部屋は中空スラブだそうで、先般、皇居の設計で宮内庁へうかがった時、聞いて感激した。

オリンピック金メダルの女の子が､生れてから一番幸福な日といいもしたが、今晩の私は、多勢の方に集っていただき、同じ思いです。

ありがとうございます。

松井先生　「中空スラブ設計要覧」（鹿島出版会）　出版記念パーティ祝辞

1995年 4月12日　菊　竹　清　訓

於：都ホテル　明日香の間

僭越ですが、挨拶と祝辞を申し上げることは、大変光栄です。この度の「中空スラブ設計要覧」の出版おめでとうございます。

私は先生の後輩で、もっぱら設計実務をやっております。先生のように頭脳明晰な学者ではありません。先生は日頃から余り無駄なことをおっしゃらないし、論文は短いほど良いと言われたり、構造に限らず、いろいろな面で心から敬愛しながら指導を受けて参りました。

先生は佐渡の真野町のご出身ですが、ご一族には歴史家、学者、そして政治家と地域文化を代表された学者の家系ということが、背景にあると思います。ご生家に伺いましたとき、何か身近な気持ちになりましたのは、「玄関の土間」を拝見してからです。ガランとした土間で、天井は大きな梁で、小屋組がそっくり見えます。こういうガラン洞の土間は、私の想像では戦後に改造されたものと思います。というのも私の九州の地主の実家も実は同じです。何故改造の

菊竹清訓氏

必要があったかといいますと、引揚者受け入れのため、大きな屋敷では、畳敷きを減らして、親族位の受け入れにしないと、共同住宅のようになるからでした。それに、北風をさえぎる佐渡の平野の風景は、驚くほど筑後平野に似ておりまして、大変親近感をもった次第です。

ご存じのように、佐渡は日本文化を色濃く残している数少ない地域で、そういう環境に成長されたことをうらやましく思いました。そんなことで、先生に３０年にわたって、親しく御指導をして頂きましたことを、とても感謝しております。

振り返って考えてみますと、２０世紀の新しい時代の構造革新の時代は欧米と競争で技術開発を続けた歴史的な世紀であったと思います。その真っ只中で、中空スラブを含むボイド構造が松井先生のもとに生まれたことは誇りであります。コンクリートが建築に応用されるようになった今世紀は、新しい技術が次々に開発され、スイスのマイヨールの橋や、キャンデラのシェルなど、みな気がついたら同世代の構造家による成果でした。

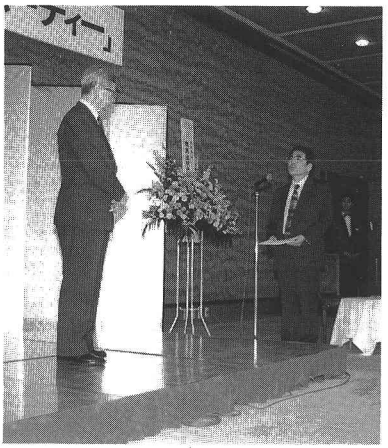
一昨年シンガポールで行われたシンポジウムでの高層ＲＣ造のレポートで、中空スラブを見せられて、うれしくなったのですが、それは、この構造と大型仮枠システムで、一層を３日でコンクリート打設するという工期のスピードアップがレポートされたからです。先生の中空スラブ工法は、我が国だけでなく、今や海外にまで広く及んでいるということです。まだ見ておりませんが、きっと台湾やアジア各地にもたくさんあると思います。

そもそもボイド構造の出発は、フラットスラブではなかったかと思います。今から３５年前の1960年　水戸ＢＳというプロジェクトで、スチールパイプの柱に円板のキャピタルを設けた構造で、２層の建築でしたが、全国に展開されました。このプロトタイプは実に空間的に魅力があり、しかも経済的でしたが、スパンが４ｍということでしたから、これを伸ばしたい。これが浅川アパートで1964年　ボイドで実現し、以来駿河銀行支店など多種多様な建築に適用して範囲が拡がっていった次第です。現在は人工土地として、もっと広く都市環境

の再開発、再構築に大規模に利用されていくものと考えております。

尚、松井先生は、構造家の顕賞に松井賞を創設され、今年で第５回を迎え、過去の受賞者には、川口衞氏、佐々木睦朗氏、ロバートソン氏など構造デザイナーの業績を評価し、貢献されています。構造家の社会的認識を高め、若い方々を励ますうえで、我が国では唯一の賞を設け、構造の発展に貢献されていることをご紹介させて頂きました。先生の今後のご健勝とご指導をお願いし、祝辞と致します。ありがとうございました。

入江善久氏



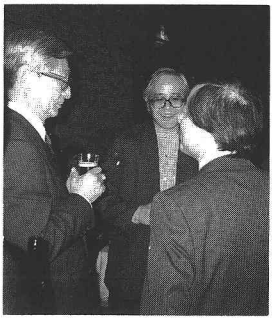
福岡義夫氏

荒川典子さん

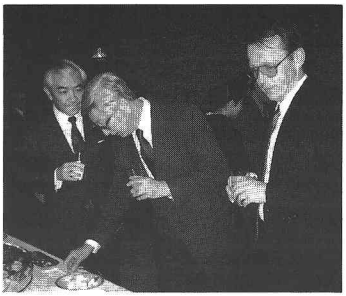
妹島和世さん

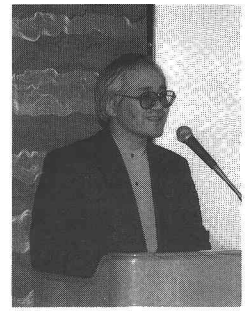
ティー」

松井源吾「出版記念パーティー」



松井源吾「出版





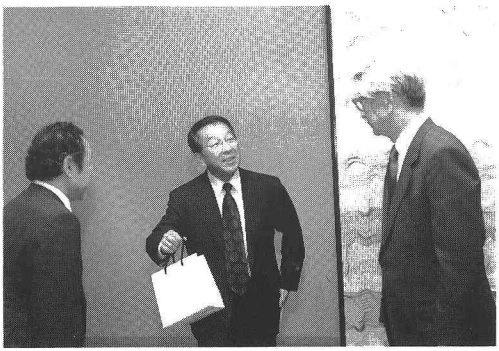
松井源吾「

祝

ティー」

出版記

ティー」



2. 大分県スポーツ公園メインスタジアムコンペ

提案競技日程概要

平成６年１０月５日	第１回審査会開催（東京）
平成６年１０月７日	募集要項発表
平成６年１０月３１日	第１段階応募締切
平成６年１１月１５日	第２回審査会開催（大分、第１段階審査） ９応募者から６者選定
平成７年２月１５日	第２段階応募図書締切
平成７年２月２３日 ～２４日	第３回審査会 （東京、面接ヒアリング、第２段階審査）
平成７年３月１０日	第４回審査会（大分、第２段階審査）
平成７年３月１５日	第５回審査会（東京、第２段階審査）
平成７年３月１６日	知事答申

大分県スポーツ公園メインスタジアム提案競技審査会委員名簿

建　築（審査会長）
松井　源吾　（早稲田大学名誉教授）

建築構造
石井　一夫　（横浜国立大学工学部建築学科教授）

都市計画・建築
光吉　健次（九州大学名誉教授、福岡都市科学研究所理事長）

スポーツ

伊藤　庸夫（サンフレッチェ広島強化部長、ワールドカップサッカー大分県招致委員会アドバイザー）

首藤　健次（大分県サッカー協会会長）

運　営

入江　雄三（㈱電通専務取締役）

行　政

堤　新二郎（大分県副知事）

矢野　善章（大分県土木建築部長）

形は球体 屋根が開閉

2000年度中の完成めざす

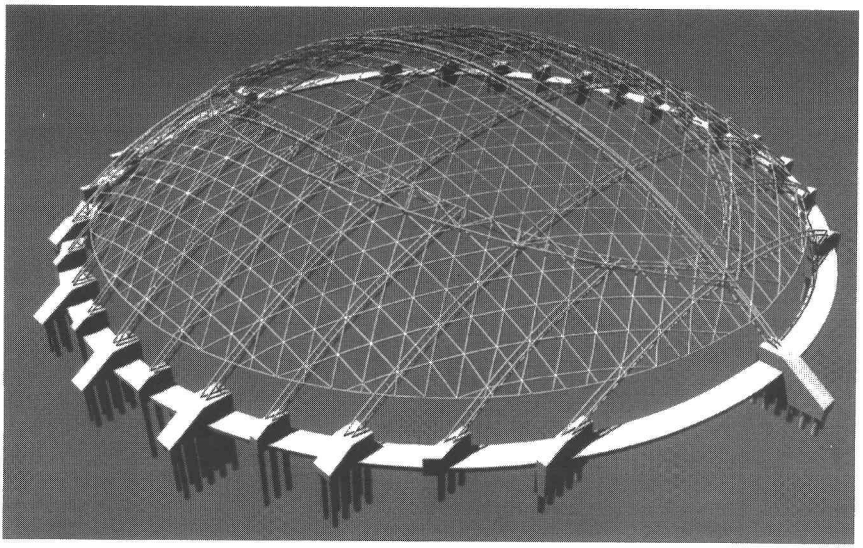
二〇〇二年ワールドカップ（W杯）サッカー日本大会の二巡目開催を想定して、県が大分市松岡地区に建設するスポーツ公園メーンスタジアムのコンペ（審査会（会長・松井源吾早大名誉教授ら八人）は十六日、「KTグループ」（鹿川紀男建築都市設計事務所＝代表企業、竹中工務店九州支店、佐藤組、鴻山総合工業）の提案を最優秀と決定し、知事に答申した。

決定案は、球体の一部が地上にせり出したような形状。四百㍍トラック上部が通常はあいており、悪天候時などには移動式屋根を閉めるようになる。建設面積は五万二千平方㍍、延べ床面積八万六千平方㍍で、直径二百七十四㍍。地下二階、地上三階。地上から屋根までの高さは五十五・六㍍、フィールドからの高さ六十㍍。収容人員は四万二千人。総工費は二百四十九億九千八百万円と、基準価格の二百五十億円におさまっている。

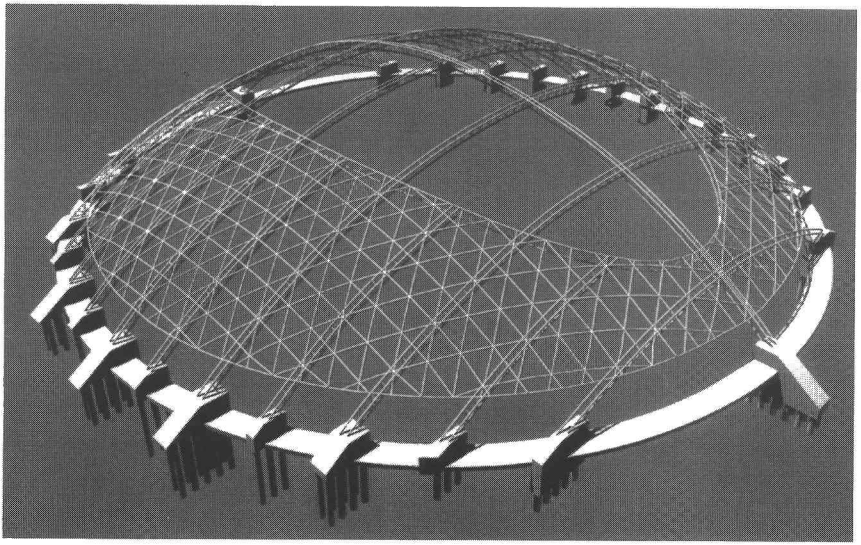
松井会長は「まず形状がシンプル。屋根も形状に合わせて球面で安定し、開閉システムの信頼度も高い。開閉部分に残るはりは自陣ゴールとの意見もあったが、移動カメラが設置できる利点もある」などと説明。十日の審査会で問題になった観客席の傾斜角度は、建築基準内であったと報告した。

コンペには、海外からも含めて九グループ（二十三社）が応募。一次選定で六グループ（十六社）に絞り込まれていた。スタジアムは来年六月のW杯開催国決定を経て、二〇〇〇年度中の完成をめざしている。

朝日新聞（95.3.17）

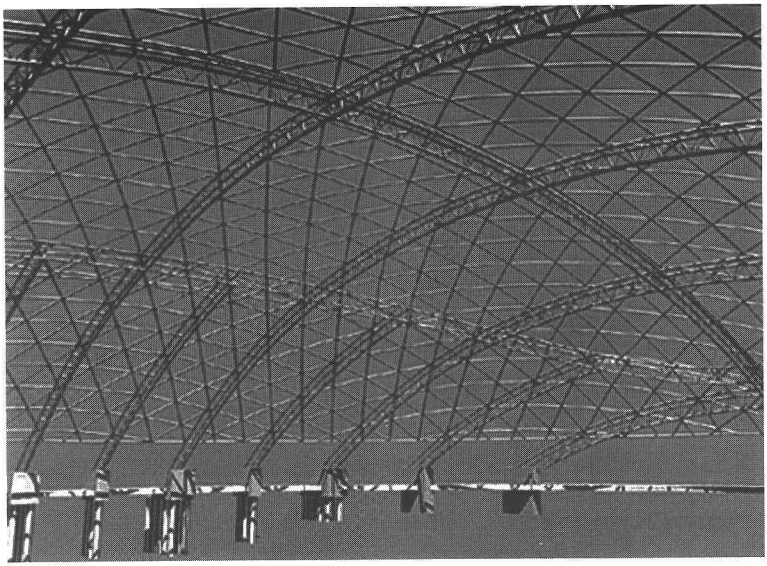


外観全体架構図（ドーム閉）

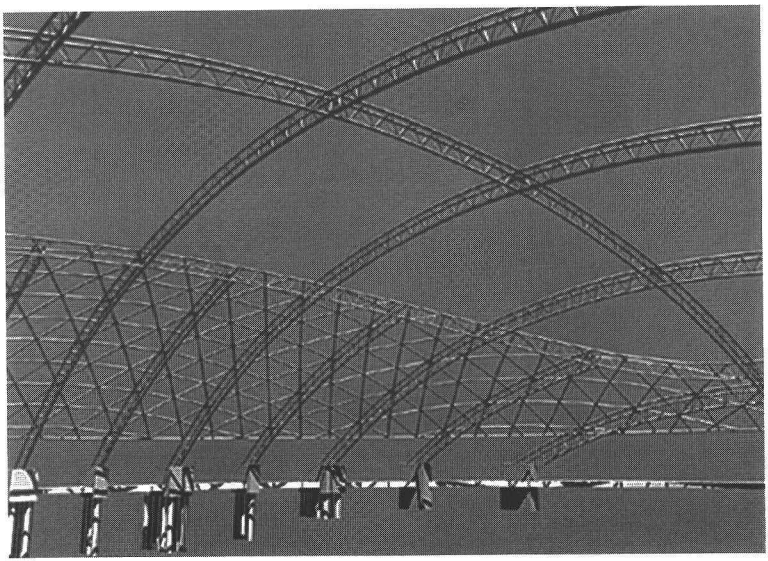


外観全体架構図（ドーム開）

「KT グループ」案



内観全体架構図（ドーム閉）



内観全体架構図（ドーム開）

最優秀に黒川紀章・竹中グループ——大分県スポーツ公園メインスタジアムコンペ

大分県では,「大分県スポーツ公園メインスタジアム」建設に当たって，２段階審査による公開コンペを実施していたが，このほど最優秀にＫＴグループ案（黒川紀章建築都市設計事務所，竹中工務店九州支店，佐藤組，高山総合工業）が決定した。

同コンペは昨年10月より応募が開始され，９点の応募があり，昨年11月15日の第１段階審査で６点に絞られ，さらに３月10，15両日の第２段階審査で最優秀案が決定した。

最優秀案は，自然との共生をコンセプトにシンプルながら洗練されたデザインでまとめられた点，開閉システムの球状の屋根構造など技術的にも安定している点，多目的利用への対応，スポーツ劇場を実現するためのさまざまな配慮などが評価されたもの。

第２段階審査進出グループは，大林組・三菱重工業・大建設計・フォスター共同体，日本設計・不動・佐藤工業共同体，日建・鹿島共同体，松田平田・フジタ・シャールボヴィス インク共同体，東畑・鴻池・川重共同企業体の５グループ。

審査員は，松井源吾(会長)，石井一夫，光吉健次各氏，ほか関係者５名。

収容人員は約４万２千人。総工事費は約250億円。参加報酬は最優秀以外の２段階進出グループに各300万円。来年度中に実施設計を終了し，2000年の完成を予定している。

最優秀賞のＫＴグループ案。

3. 黒川紀章氏と公開対談

――（95.6.8　建築学会）――入院中の慶応病院から――

建築夜楽校IX期/世紀末の建築-21世紀への展望

【第2夜】6月8日[木]18:00-20:30 建築会館ホール

司会芦原太郎　講師黒川紀章・松井源吾

黒川紀章 くろかわ きしょう

建築家。黒川紀章建築都市設計事務所主宰。1934年愛知県に生まれる。1957年京都大学建築学科卒業、1964年東京大学大学院博士課程修了。作品に「国立民族学博物館」、「和歌山県立近代美術館・博物館」、「パシフィックタワー」(パリ) 他。1990年日本建築学会賞、1992年日本芸術院賞、他を受賞。

松井源吾 まつい げんご

構造家。早稲田大学名誉教授。1920年新潟県に生まれる。1943年早稲田大学理工学部建築学科卒業。「早大理工51号館」、「佐倉市庁舎」、「江戸東京博物館」の構造設計をてがける。著書に「建築構造計画入門」、「見える力学」他。1968年・93年日本建築学会賞、他を受賞。

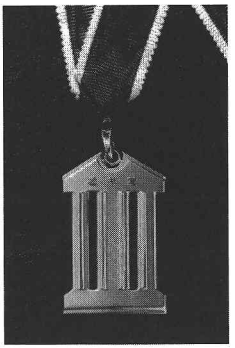
芦原太郎 あしわら たろう

建築家。芦原太郎建築事務所所長。1950年東京都に生まれる。1974年東京芸術大学美術学部建築科卒業。1976年同大学院建築学修士課程修了。作品に「笠間日動美術館」、「一九堂ビル」、「山梨県立看護短期大学」他。1993年新日本建築家協会新人賞を受賞。

これから対談会場へ

4. 第５回松井源吾賞授与

―― (95.6.1　リーガロイヤルホテル) ――



松井源吾記念会

受賞者への業績評

菊竹清訓（選考委員代表・建築家）

数千年の建築の歴史において，構造家がこれほど独自の活躍を欲しいままにした時代はなかった．橋にしても，塔にしても，建築においても，鉄・セメントが量産され，大量に供給されるようになったために，構造の黄金時代が始まったのである．ほとんどすべての大型建築が，これまでのような経験的な技術ではなしに，理論的解析によってのみ計画され，次々に実現していくことになった．

これはある意味で大きな飛躍であって，構造の世紀といってもよいような，いろいろな架構の開発が行われ，可能性は無限のように拡がった．当初，ＲＣ造が主体と考えられていたが，すぐにＳ造が追随して，相互に刺激し合いながら急速な発展と構造形式の多様な展開は，めざましいものがある．

今この時代の潮流の渦中にあって，新しい構造が生み出す空間の魅力に，どれほどの喜びを享受しているか，想像を絶するものがある．ところが，この主役である構造家が意外にもデザイン上，サブに扱われ，デザインに対してエンジニアとして脇役のような扱いを受けているが，これは明らかに現代建築の動向に照らして不当である．その担っている役割の大きさに対して，あまりに過小な処遇のように思われてならない．

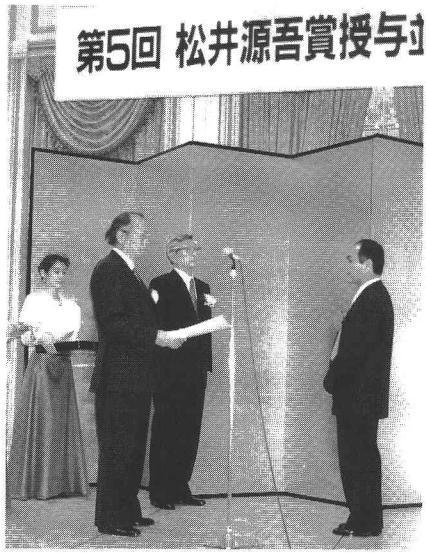
この度，ピーター・ライス氏が選ばれたのは，レンゾ・ピアノ氏を支えて「関西国際空港ターミナルビル」の構造を担当されたこともあるが，一連の業績からいえば，シドニーのオペラハ

ウスでのヨーン・ウツソンとの協同が世界の建築界の注目を集めたことはあまりに有名で，非凡である．単なる構造を超えて，それぞれの建築の本質的個性がそこに表現されているためであろう．構造を抜きにしては空間も建築も語り得ないまでに，極めて重要なシンボル性が付与されていることに気づかせられる．構造を超え，建築を超えて，芸術に踏み込んでいる．審査員はその素晴らしさに魅了されたことを率直に告白しなければならない．これはセンチメンタルな構造へのオマールではない．

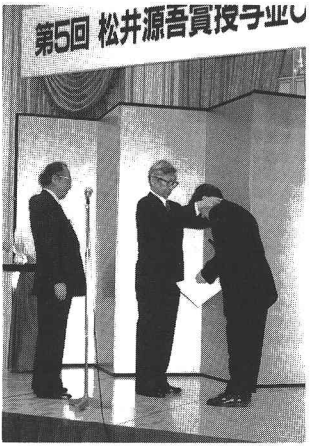
また若い構造家として，中田捷夫氏を選んだ．キラリと光る才能が作品に感じられる．こういう能力がさらに大きく，花ひらくことを心から念願したい．

第５回松井源吾賞を通じて思うことは，構造家の役割の偉大さを社会的にも，建築界でも，もっともっと認識する必要がある，ということである．構造的建築家の栄光を構造の時代であるだけに審査員一同強く希わずにはいられない．

故ピーター・ライス氏御子息



中田捷夫氏

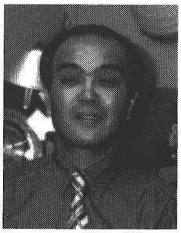

第5回 松井源吾賞授与

第5回 松井源吾賞授与並びに披露パーティ

第5回 松井源吾賞授与並びに披露パーティ

第5回松井源吾賞受賞者

中田捷夫 Katsuo Nakata



●経歴

1940年　大阪府に生まれる
1966年　日本大学大学院修士課程修了
1978年　坪井善勝研究室取締役
1991年　中田捷夫研究室開設
　　工学博士，技術士（建設部門）

●主な作品

1990年　ＴＳＰ太陽本社ビル（伊東豊雄）
1991年　小国町立西里小学校多目的ホール（木島安史）
1992年　清里町ホテルポリーニア（伊東豊雄）
　　木造３階建「スーパーハウス」（納賀雄嗣）
1993年　小国町立小国中学校体育館（木島安史）
1994年　椿原町地域交流施設（隈研吾）
　　コーベコニシ本社／流通センター（山本良介）
　　ゆりかご幼稚園（藤木隆男）
1995年　東大阪吉田団地（納賀雄嗣）
　　ばんだい(株)熱海研修所（隈研吾）

●活動

日本建築学会：シェル委員会テンション構造小委員会，壁式構造検討委員会
日本建築構造技術者協会：技術委員会（副委員長），広報委員会（副委員長），震災対策委員会
I.A.S.S.：ＷＧ17 開閉屋根指針作成委員会

コーベコニシ本社／流通センター 1994

20

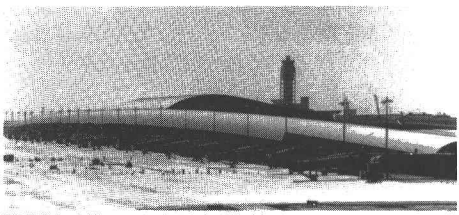
ピーター・ライス Peter Rice

●経歴

1935年　アイルランドに生まれる
1956年　クイーンズ大学土木工学科卒業
1956年　オヴ・アラップ&パートナーズ社に入社
1963年　オーストラリアのエンジニア・チームに参加
1977年　R.ピアノと協働
1992年　王立英国建築家協会名誉会員
アイルランド王立建築家名誉会員
王立英国建築家協会ゴールドメダル受賞
10月25日　ロンドンで死去

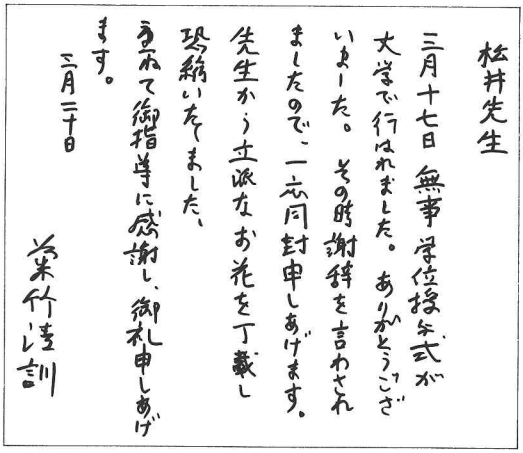
●主な作品

1973年　シドニー・オペラハウス（Y.ウツソン）
1977年　ポンピドー・センター（R.ピアノ＋R.ロジャース＋オヴ・アラップ）
1986年　ロイズ・オブ・ロンドン（R.ロジャース）
メニル・コレクション美術館（R.ピアノ）
1989年　ルーヴル美術館ピラミッド（I.M.ペイ）
新凱旋門（Y.オットー・vonスプレッケルセン＋P.アンドリュー）
1994年　関西国際空港ターミナルビル（R.ピアノ）



関西国際空港ターミナルビル（外観）　1994

5. 菊竹さん工学博士に

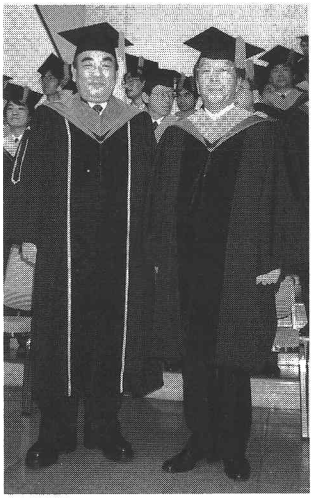


松井先生

三月十七日 無事 学位授与式が
大学で行はれました。ありがとうございました。その時謝辞を言わされましたので一応同封申しあげます。
先生から立派なお花を頂戴し恐縮いたしました。
重ねて御指導に感謝し、御礼申しあげます。

三月二十日

菊竹清訓



総長と

謝　　辞

菊竹清訓

この度は栄えある伝統の早稲田大学の博士学位の授与を受けまして、感銘新たなるものがあります。

年長者ということで、今年度の学位を受けることになった方々を代表して、論文指導並びに審査に当たって頂きました、諸先生そして大学に対し改めて心から御礼と深い感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

これからも学問の発展に尽くし、それぞれの分野でさらに研究を続け、学位の名に恥じない成果を重ねていくことを心掛けたいと思います。

学位の取得には、それぞれにご努力があったと思いますが、私は旧制の大学で建築学科を昭和25年卒業し、以来45年、もっぱら実務

につき、学問的な研究には無縁でしたが、その間、建築の領域では、技術的革新が進み、設計環境は激変いたしました。

とくに今世紀初頭から始まったコンクリート構造、鉄骨構造、さらに膜構造など人工材料による新しい構造技術の進歩の影響は、極めて大きく建築に革命ともいえる変化をもたらしました。

変化は、建築のデザインと構造の関係においてで、この二つは、現代建築の実現に密接不可分となり、かつ新しい空間を生み出す上で、大きく貢献してきました。こうして架構は、造形的にも統一的で、総合的な価値の創造が行われるようになりました。

しかし、複雑で巨大な空間をつくる上では、理論的解析と同時に視覚的に力の流れをつかむことのできる実験的手法が重要で、ここに「軸力ドームの理論とデザイン」という研究が生まれたわけです。早稲田大学名誉教授松井源吾博士とその研究室の指導によって、この論文はできあがったものですが、歴史的背景とこれからの大空間の社会的ニーズに照らして、研究の成果が、いくらか役立つことになれば、この上ない喜びであります。またこのような分野の研究に、関心のある人達が後に続いてくれれば、さらに大きな喜びであります。

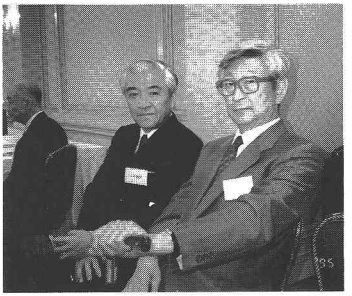
建築の造形の分野では、これまで博士学位は歴史以外は少ないのですが、技術革新による時代の変化は、デザインと構造とのより深い連繋と、相互協力が必要となってきており、今後、多くの研究者がこの領域で育ってくるものと思います。

私の研究分野は、現在海上都市やメガストラクチャーなどで、理工総研で産学共同の研究をやっておりますが、今後も後進の指導に尽くしたいと思います。最後に早稲田大学の歴史を讃え、学問の発展を祈念し、博士学位授与式にあたり、告辞を述べさせて頂きました。ありがとうございました。

1995年 3月17日

早稲田大学 2号館
2階 式場に於いて

お祝いの会（95.7.22
リーガロイヤルホテル）



6. 病　院

病院にて誕生日，看護婦さんより

松井先生へ

短い期間でしたが、ありがとうございました。勉強になる事が沢山あり、学びの多い実習だったと思います。先生の様な素晴らしい方と出会えたことを、心より嬉しく思います。

先生の手がけてこられた建物が、色々な所で色々な人の役に立ち、色々な人に喜ばれ、幸せを与え続けていること……本当に素敵なことだと思います。

最近、建物を見る目が変わった様に思います。私にとっては、新しい世界でした。

私が生まれた時には、すでに両祖父を亡くしていましたので、祖父というものを知りません。だけど先生と接している中で、先生には失礼だとは思いますが、先生の様な方が祖父だったら良かったな、と感じることが多く、どこかで本当の祖父のように接していた部分もありました。短い期間でしたが先生と接することが出来、とても幸せでした。

先生の笑顔はとてもあたたかいですね。

先生の幸せを心よりお祈りしています。

慶應義塾看護短大 3年 山村朋子

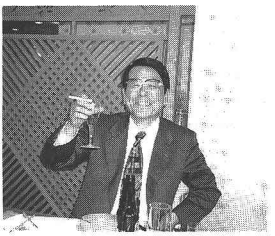
Like a tree filled with ornaments,
may your Christmas be filled with delights
which bring lots of happiness.

松井先生へ　山村朋子

7. 最近のアルバム

多摩美術大学　建築科同窓会　'94.6.26　2期

京王プラザホテル



神戸地震視察途中
（95.1.26　京都　都ホテル）

芦屋の倉本君上京、理工世話人会（95.2.12　三田 NEC クラブ）

遠藤さん、細谷さん送別会
(95.2.18　目黒雑魚屋)

大分コンペ審査の帰り、石井氏と
(95.3.10)

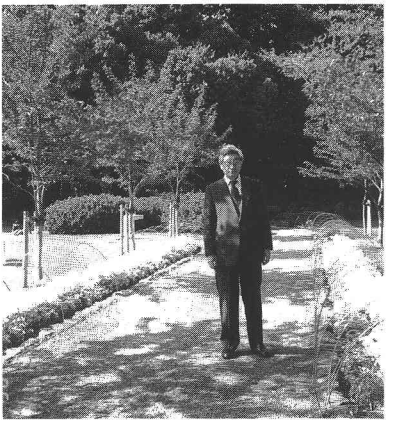
丸山東君結婚式（95.3.18　雅叙園）

新婚旅行（カナダ）

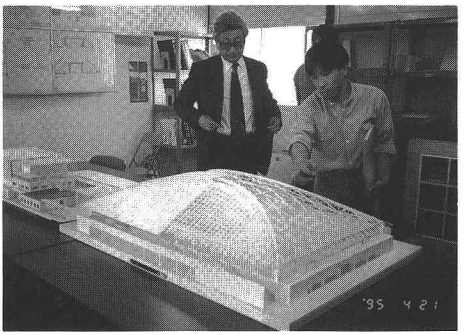
都庁前（95.3.21）

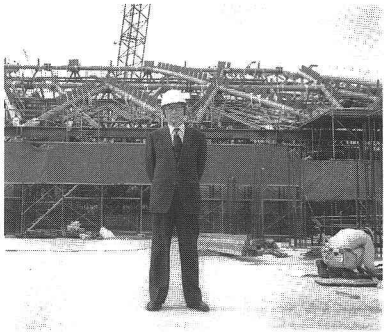
大関和江さん結婚式
（93.3.28　川越長徳寺）

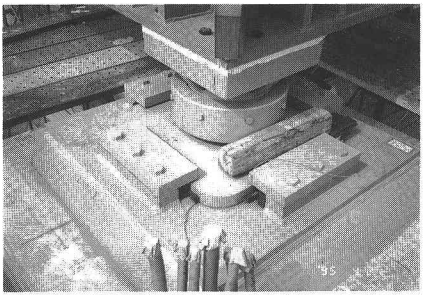
庭園美術館（95.4.20）



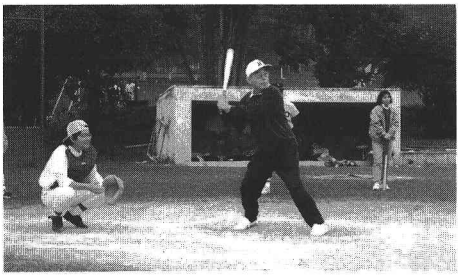
小田原市総合体育館現場
（95.4.21）







相田さん　イタペチ農場へ（95.4.23）



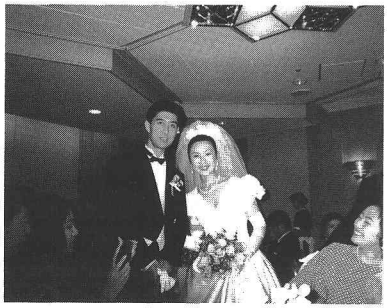
ブラジル早慶戦（95.6.4）

黒川さんと対談（95.6.8）

菊竹さんと対談　建築家協会（95.10.4）

金井宏之さん結婚式
(95.10.28　帝国ホテル)

謹　賀　新　年



二人で迎える初めてのお正月です。
今年もよろしくお願い致します。

平成八年　元旦

結婚式当日は
御足労頂き　どうもありがとうございました。

〒157　東京都世田谷区砧7－2－21
アーク成城104
☎03(3749)3247

金井　宏之・典子(旧姓　米澤)

結婚式の写真は故人が出席するつもりだった方々のもので、私が出席させて頂きました。

私たち結婚しました。

まだまだ未熟な二人ですが、力を合わせて幸せな家庭を築いていきたいと思います。
今後ともよろしくお願いいたします。

平成八年五月　吉日

〒168　東京都杉並区下高井戸
四－三十三－十七

阿部秀隆
敦子(旧姓　鶴山)

☎〇三(五三二七)〇五五五

(96.1.20　八芳園)

結婚しました。

ふたり仲よく二人三脚、力を合わせてしあわせな
家庭を築いていきたいと思っております。
近くへお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

1996年5月吉日

〒232
神奈川県横浜市南区中村町2-126-14
小川勝利
由美子（旧姓 吉井）
☎045(251)4107

(93.3.10)

阿部雅明さん（96.5.11
群馬ロイヤルホテル・
前橋カトリック教会）

Just Married

暑中お見舞い申し上げます。
私たち結婚しました。
これからも二人で
力を合わせてがんばりますので、
よろしくお願いいたします。

〒331 埼玉県大宮市宝来一六六三―一―四〇二
小野里 憲一
真理子（旧姓 佐藤）
☎・FAX〇四八―六二二―九二五〇

(96.6.1　目黒雅叙園)

8. 雑　記

1. 対　談

建設通信新聞 1/2 Architecture

新日本建築家協会（ＪＩＡ）関東甲信越支部（斎藤孝彦支部長）が「デザインと構造の理想的なかかわり」を求めて始めた、建築家と構造家のリレー対談が六年の歳月を経てようやく完結した。最後を飾ったのは、これまで四十年間もパートナーとして多くの建築物を手掛けてきた、建築家・菊竹清訓氏と早稲田大学名誉教授・松井源吾氏。今回は百五十枚ものスライド写真を使いながら、大空間ドームを中心とした対談となった。

対談の題材となった作品は、「立花町体育館」「ならシルクロード博」など十数点におよぶ。対談に先がけて菊竹氏は「構造は造形をリードする」とし、「そこから建築の展開が始まる。その展開を考えるとき、まず構造による飛躍を考える必要があります」とつけ加えた。さらに今回の題材である大空間ドームについて、「一九九五年を境にいろいろな構造帯がミックスされてきました。それまでコンクリートドームが主流だったが、鉄骨ドームが現れたのがその時期です。さらに日本の産業基盤も整い始め、そこから建設産業が世界をリードしていくのです。いわば新しい構造を日本からつくり出す時代だったわけです」と、その時代背景を説明した。

松井氏は軸力ドームの理屈について、「雨の流れ落ちる方向を考え、上からの荷重をなるべくその流れの方向に圧縮で伝えていくのです。だが不規則ドームは実験するしかありません。薄い膜を四方から引っ張って、その下から荷重を加えて膨らみをみて、そこに鉄骨などで形を組んでいきます」と述べる。

デザインと構造　ＪＩＡ関東甲信越　理想的なかかわり

菊竹ＶＳ松井　　リレー対談が完結

松井　源吾氏

菊竹　清訓氏

松井氏　軸力ドームは「雨の落ちる」理屈で
菊竹氏　構造は造形を「リードする」時代に

菊竹　ならシルクロード博では敷地内に文化財があるということで、かなり規制されました。一平方㍍あたり四㌧までしか荷重をかけれないうえ、地面を五〇㌢以上掘れませんでしたから、膜構造を採用するしかなかったんです。それに博覧会が分散会場形式でしたので、どう対処していくかが最大のテーマでもありました。

文化財のほか、住民との関係もあって、県ではかなり不安だったようです。そのうえ、（構造家）もドイツで使ったものよりもすばらしいと感心していました。

菊竹　江戸東京博物館は、大きすぎて構造的に冒険しすぎるといった意見が多かったですね。大規模構造物は縦揺れの問題があるので、制御装置のことを宇宙工学のエンジニアに聞きました。縦揺れがバス、トラックなどの振動にくらべて、実験を繰り返していくのです。そのように理論と実験は並行に進められていくのです。建築家と構造家は常に力を合わせて造り上げていくということなのです。

造リブをつないで、これら諸条件に対応したんです。木造を力学的にみると、木材には方向があります。その特性をいつか利用しようとしていました。木造の場合は、接合部分がすべてなのです。エポキシ剤の発達で接合部を強化することが可能になり、十分に使えるようになりました。

そういえば、足場がない工事だったので、材料は曲がりやすい細い材料を使いました。さらに建設ロボットが現場を縦横無尽に動き回っていたので、フライ・オットー氏

松井　計算結果では床の下に制振装置をつけて、四分の一まで揺れをおさえることができます。

菊竹　このように加工体を完成させるまでには、長い時間がかかります。少しずつ前進させていくことが必要になるのです。キャンデラ氏（構造家）などは、実務を知ったうえで、実験を繰り返していくのです。そのように理論と実験は並行に進められていくのです。建築家と構造家は常に力を合わせて造り上げていくということなのです。

江戸博物館の斜めになった壁根が、そこにかかる遠心力をおさえる働きをしています。もっとも問題だったのは、床なんですが、そこに縦揺れの制振装置を付けました。

松井　その床の制振装置は、新幹線の空気バネと一緒で、モデル実験を鹿島研究所でやりました。

菊竹　激しい揺れに対して、その装置はうまく適応するのですが、ゆるやかな揺れに対してはなかなか難しいのです。

松井　計算結果では床の下に制振装置をつけて、四分の一まで揺れをおさえることができます。

菊竹　このように加工体を完成させるまでには、長い時間がかかります。少しずつ前進させていくことが必要になるのです。キャンデラ氏（構造家）などは、実務を知ったうえで、実験を繰り返していくのです。そのように理論と実験は並行に進められていくのです。建築家と構造家は常に力を合わせて造り上げていくということなのです。

菊竹　ならシルクロード博では敷地内に文化財があるということで、かなり規制されました。一平方㍍あたり四㌧までしか荷重をかけれないうえ、地面を五〇㌢以上掘れませんでしたから、膜構造を採用するしかなかったんです。それに博覧会が分散会場形式でしたので、どう対処していくかが最大のテーマでもありました。

文化財のほか、住民との関係もあって、県ではかなり不安だったようです。そのうえ、（構造家）もドイツで使ったものよりもすばらしいと感心していました。

菊竹　江戸東京博物館は、大きすぎて構造的に冒険しすぎるといった意見が多かったですね。大規模構造物は縦揺れの問題があるので、制御装置のことを宇宙工学のエンジニアに聞きました。縦揺れがバス、トラックなどの振動にくらべて、実験を繰り返していくのです。そのように理論と実験は並行に進められていくのです。建築家と構造家は常に力を合わせて造り上げていくということなのです。

2. インタビューほか

■戦後建築をつくった人々

早稲田大学名誉教授　❖GENGO MATSUI

松井源吾

インタビュー：6月2日／
松井源吾＋O.R.S.事務所にて

戦渦の中から

◎聞き手——川口健一　東京大学生産技術研究所助教授　❖KEN-ICHI KAWAGUCHI

——構造の分野へ進まれたきっかけは何でしょうか。

構造の方が頼りになるという感じを持っていました。デザインのエスキースの時間などは，先生の気分によって前回と違うことを言われたりしてね。また，同期の(故)安東勝男さんが天才的で，とてもかなわないとも思ってました。そんなとき，瀬谷勇さんや竹内盛雄先生と弾性論のゼミをやっていて，鶴田明先生から「構造でもやるか」と言われたのがきっかけでしょうか。ゼミの方は，瀬谷さんと竹内先生が相次いで出征したものだから結局なくなってしまいましたけれど……。

昭和18年学部卒でしたから，大学院のころは授業はほとんどなく疎開の荷物運びなどの労働ばかりしていました。戦後は何もやることがないので，力学の勉強をしました。卒業後10年間ほどは鉄がなく工場などの設計を木造でしていました。軽量鉄骨が出てきたころ，やっと鉄が使えてうれしかったものです。鉄筋コンクリートは学部の授業では習っていても，実際に建物が建つのは見たことがなく，昭和26年ごろに，日比谷の国際ビルが鉄筋コンクリートでできるということでみんなで見に行きました。

その後，安東さんと3階建ての小学校をよくやりましたけれど，菊竹清訓さんから5階建てのビルを頼まれたときは，安東さんに，「5階建てなんて生涯あるかどうかわからないぞ。俺との仕事は後まわしでもいいから，5階建ての方をやれ」と言われたものです。でも，それから10年もしないで，早大理工学部の18階建てが建ったんです。現在みたいに高層ビルがどんどん建つなんていうのは，当時は想像もできなかったですね。

――光弾性実験を構造のプレゼンテーションとして活用され続けていますが。

デザイナーには，目で見える方が説得力があるわけでしょう。光弾性をやったのは，一つは，デザイナーに力の流れを見てもらおうと思ったからです。光弾性は実験なので信用してくれます。計算機は，精密な答えは出てくるし，グラフィックで奇麗な絵も出ますが実感を伴った信憑性がない。有限要素法などと違って光弾性は連続体そのものですから，要素分割の仕方で応力集中を見逃すというようなこともないのです。

築地電通ビルの最初の案では，丹下健三先生が意匠設計，坪井善勝先生が構造設計だったんですが，僕がその光弾性実験をやりました。初めの案では壁面全体がトラスのようになっていたのですが，トラスが連続していかないところがあって，光弾性でやるとその部分に縞がたくさん出る（応力状態が急変することが分かる）。坪井先生が丹下先生にその実験の写真を見せて，「この部分はこんなに縞が多いから構造的に不利だ」と説明したら，丹下先生が，遠く離れた別の壁の部分を指して，「ここは縞がなくてこんなに空いてますね」と言われましたよ(笑)。

数年前，光弾性を使ってアーチの解析をしました。今度はドームの解析をやりたいと思っています。

――特徴的な構造形式の建物を早くから多く設計されていますが，デザイナーと構造家のかかわり方についてどのように考えておられますか。

原則的にはデザイナーの方が考えて，構造家はそれを実現するのに苦労をする。例えば菊竹さんは，僕の先生で，先生は宿題を出すが答えは教えてくれない。そんな関係だと思います。昭和42年の立花町体育館の屋根のときは，菊竹さんが，レンズ型の断面の絵を描いてきて，あとは何にも言わない。真ん中の白いところは勝手に考えろということで，上は圧縮，下は引張りで，真ん中に束(つか)とブレースを入れて例のサスペンアーチを考えたわけです。この宿題に対しては，割合良い生徒だったと思っています。

構造というのはどちらかというと保守的で，デザイナーの方が進歩的だと思います。なるべくデザイナーの注文に近いものを実現するように努力はしますが，デザイナーの注文が全部できるわけではないから，構造家はそれを抑えることになる。構造家の方から提案するのは自分の解決策に一般的な数学的，あるいは力学的な裏づけを持てたときです。そのような案があれば，こちらから提案ができ

るようになるんです。中空スラブなんかもそうですよ。僕の提案としては，水の流れや膜のたわみを利用した流線梁なんかもありますが，原則的にはデザイナーに引っ張られている場合が多いですね。

――計算機やそのほかデバイスの発達は，構造設計のあり方を変えていくのでしょうか。

例えば，病院に検査に行くと，最新の機器で頭や胸や腹のCTを撮る。でも最後は，主治医が聴診器を当てる。昔の構造計算は，この建物を計算しなさいというと1週間かかったんですよ。今は1時間くらいで答えが出てきて，「さてどうしましょう」とくる。計算機だと初めと終わりしかなくて，間のチェックがない。計算機の性能は良くても間違ってデータを入れたかもしれない。そうすると，結局聴診器を当てるようなことをしないと心配なんですよ。ワープロの誤字は構わないけれど，建物で1桁数値が違ったらおおごとですからね。

今のところ，計算機でできるのは創造性のない解析だから，解析をいくらしても創造性のあるものは出てこないと思います。では，計算機の方から提案してくるようになったら……つまらないなあ。最終的には人間に決定権がないとね。医者は聴診器を持っていないと(笑)。

――今回の阪神大震災についてどうお感じになりましたか。

木造で何千人死ぬというのは問題だと思います。日本は断層だらけだから，全国的に木造で人が死なないようにしなければならない。既存不適格なものは，金物での補強や，開口部にプレキャストのラーメンでもはめ込むようなことで何とかならないものかと思っています。

今回の震災で，僕の関係したもので被害の大きいのはなかったんですが，大阪でガラスが壊れたのがありました。ガラスが入るころ，構造屋が知らぬ顔をしているのは問題だと反省しました。

十勝沖地震のときもそうでしたが，旧基準でも壊れていない建物がたくさんあります。壊れた理由なんて本当は分からないのではないでしょうか。スラブの基準なんかも，年々，故障が報告されるたびに厚くなるんですよ。故障なんていうのは，100に1ぐらいしかないものです。基準で決められると，みんな守らなくてはならなくなる。世の中，悪いものをもとに何でも決めているみたいで，残念な気がしますね。

――最後に若い人への提言などがありましたら。

今度の震災は構造設計の大切さが再認識される機会だから，これ

から構造系へ進む人が増えるだろうと僕は思うんですが，新耐震で構造設計が面倒になったお陰で構造設計をやめた人がいるそうですよ。今後はもっと厳しくなるから，構造をやる人がいなくなるのではないかって冗談半分に言う人もいます。

僕なんかもそうですが，福井地震で耐震壁が注目されて，それで博士論文を書いた人が何人もいるんですよ。それが普通ではないですか。構造に進む若い人が増えると信じていますよ。

松井先生指導による博士論文リスト

藤本一郎（1963年 3月）

『鉄筋コンクリート梁および鉄骨鉄筋コンクリート梁の剪断抵抗に関する研究』

望月　重（1967年 3月）

『鉄筋コンクリート壁体の耐震設計に関する研究』

槇谷栄次（1973年 3月）

『鉄筋コンクリートスラブの直交異方性弾塑性解析に関する研究－平面作用及び圧縮薄膜作用について－』

大越俊男（1973年11月）

『梁・柱接合部の弾性理論的研究』

入江善久（1975年 6月）

『中空スラブ構造の研究』

安藤信好（1976年11月）

『鉄筋コンクリート斜め格子梁床板の強度に関する研究』

佐藤立美（1980年 2月）

『耐震壁を有する架構の解法に関する研究』

田村幸雄（1981年 2月）

『円筒の渦励振に関する研究』

瀬谷　均（1981年10月）

『シェル構造物の位相差を考慮した地震応答の基礎的研究』

瀬谷　胖（1982年 3月）

『開口のある耐震壁の応力と変形に関する研究』

須田健一（1984年 2月）

『高層建築物に作用する風圧力に関する研究』

手塚　升（1985年 3月）

『軽量コンクリートのき裂問題に関する基礎的研究』

田中輝明（1987年 2月）

『木柱の捩りと膜のたわみの相似に関する研究』

椙木紀男（1987年 3月）

『開口のある鉄筋コンクリート耐震壁の力学的挙動とその補強方法に関する研究』

塚越　勇（1987年 3月）

『接合部円板の応力に関する研究』

深尾康三（1987年12月）

『低ライズケーブル補強空気膜構造の力学性状に関する研究』

内藤幸雄（1987年12月）

『サイロの耐震設計に関する研究』

西谷　章（1987年12月）

『木材のボルト接合に関する基礎的研究』

榎田寛治（1988年 3月）

『円形開口のある壁体の鉛直荷重時の応力解析に関する研究』

藤井邦雄（1989年 1月）

『超高層建築物に作用する変動空気力とそれによる応答の研究
－多点同時圧力測定方法と変動風圧の可視化を中心として－』

岩佐義輝（1990年 3月）

『超高層建物の強風時の振動性状に関する研究』

望月　洵（1991年 3月）

『連層耐震壁の強度に関する研究』

坪井義隆（1991年 3月）

『壁式架構の剛域に関する研究』

伊沢　久（1991年 3月）

『梁のハンチの応力分布に関する研究』

難波治之（1991年 3月）

『平板開口の筋違補強の研究』

宋　皓山（1993年 3月）

『フラットスラブの曲げモーメントに関する研究』

松井賞受賞者

第1回（1991年）

川口　衞　『サンジョルディ・パレス』

佐々木睦朗『美和ロック工業玉城工場』

第2回（1992年）

播　　繁　『大阪東京海上ビルディング』

草場基成　『松下クリニック』

第3回（1993年）

斉藤公男　『一連の作品』

レスリー・E・ロバートソン　『一連の作品』

第4回（1994年）

今川憲英　『石打ダム資料館』

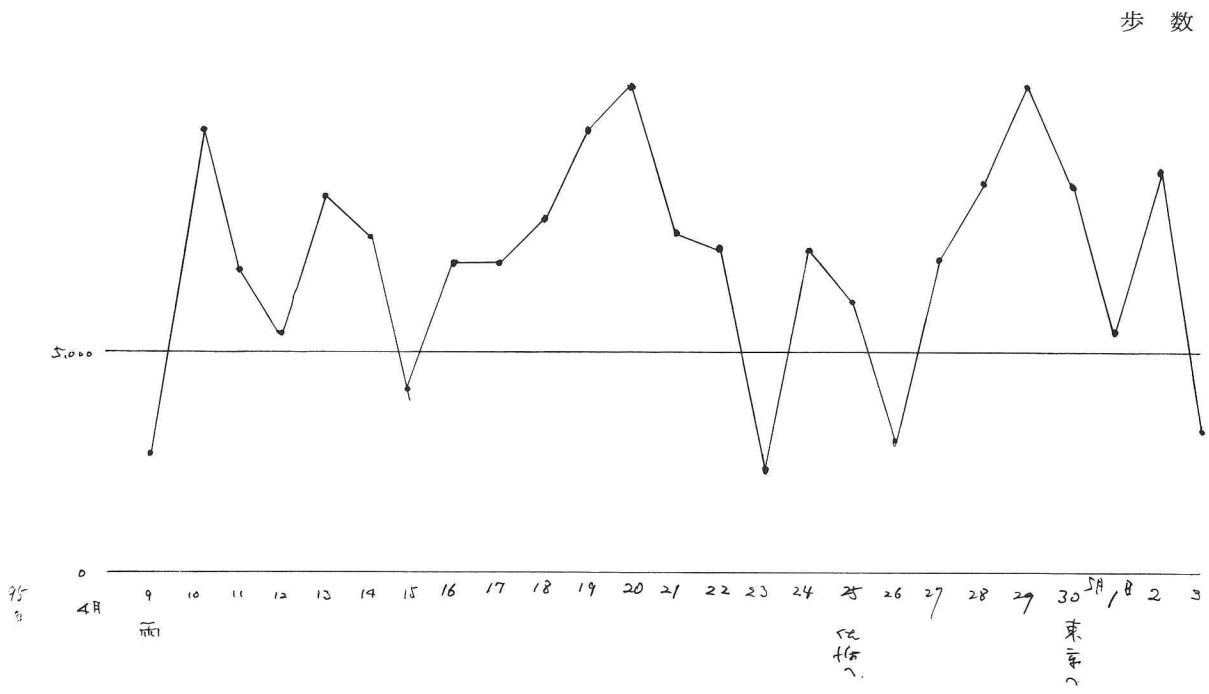
第5回（1995年）

中田捷夫　『原町地域交流施設と一連の作品』

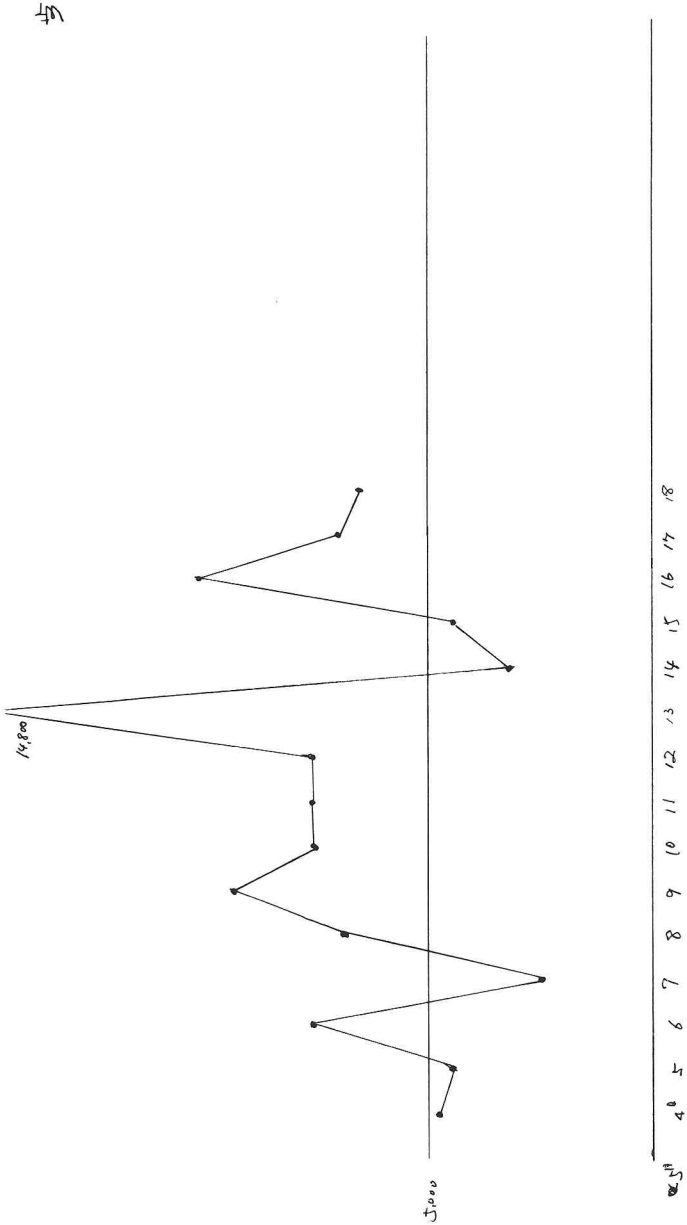
ピーター・ライス　『関西国際空港ターミナルビルと一連の作品』

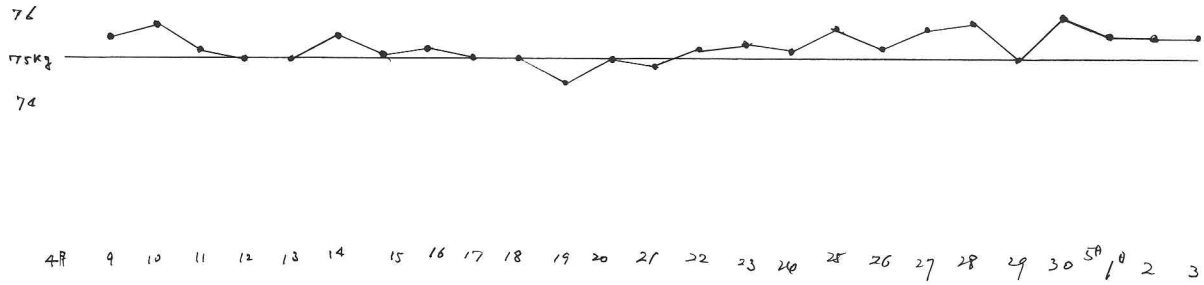
（以下本文参照）

3．万歩計

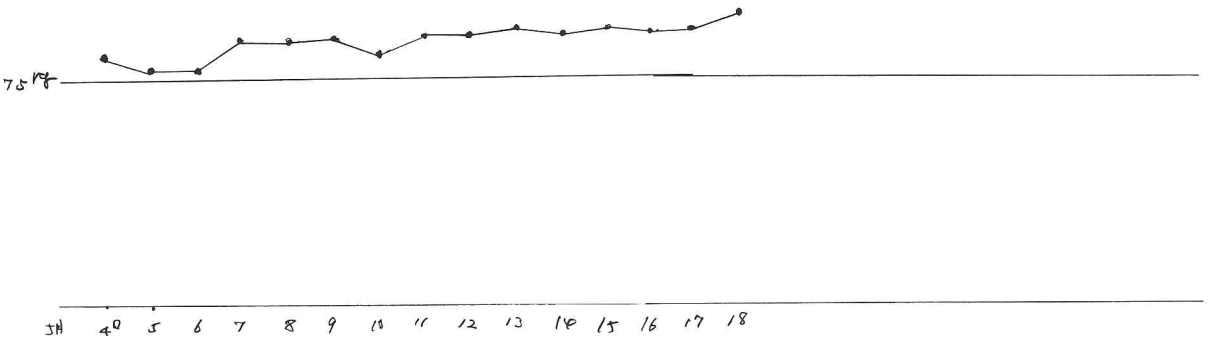

歩数
5,000
0
4月
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
5月
1
2
3
雨
東京へ

歩数




76
75kg
74
4月 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 5月 1 2 3

体 重


75kg
3月 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

4. 手　紙

残暑御見舞い申し上げます。

御無沙汰いたしまして　申しわけありません。
４月、慶応病院で、レントゲンで肺に影があるということで、５月１９日　検査のため入院、結局６月１６日　右肺上部切除の手術をうけました。
手術はうまく行って、７月６日　退院いたしました。
痛みは、少々残っている程度ですが、肺が 3/4 になったため　肺活量が減少、すぐつかれてしまいます。年をとってからの手術というのは大変なんだと、つくづく思いました。　現在、毎朝３０分散歩して、徐々に体力回復に　勤めております。
９月に入ったら、そろそろ設計活動にもどれるのではないかと思っています。
長い間、御心配をかけ、又御迷惑をかけましたこと、深くおわび申し上げます。

近況報告まで

８月２５日

〒141　品川区上大崎　2-24-11(2-402)
Ｏ．Ｒ．Ｓ．事務所　内

松　井　源　吾

秋冷の候、益々の御健勝のことと御慶び申し上げます。

肺の手術から４カ月、かなり体力が快復して来ましたが、完全ではありません。ほとんど毎週慶応病院に通って検査をうけています。佐渡へも５月以来帰っていません。

２年前佐渡に引込むつもりでしたが、案外、東京に用事があることや、病後病院に行くことが多くなり、また東京へ居を移そうかと思っています。住いをさがしていますが、なかなか見つかりません、適当な所がありましたらお知らせ下さい。

退院後は、ホテル住まいでしたが、現在は、下記に世話になっています。

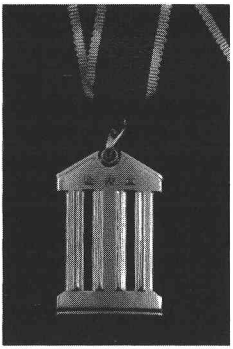
〒171　豊島区南池袋 2-36-1　伊沢方
TEL 03 3984 2747

伊沢政枝さんとは、前から交際をしていました。私の病気（ずっと看護してもらいました）で、延び延びになりましたが近く結婚するつもりです。なお、ほとんど毎日 O.R.S. 事務所に出かけていますので、打合せ、連絡など、事務所の方へお願いします。

1995 年 11 月 7 日　　松井源吾

9. 第6回松井源吾賞

――（96.6.18　リーガロイヤルホテル）――



松井源吾記念会

受賞者への業績評

菊竹清訓（選考委員代表・建築家）

松井先生が去る1月11日他界された。日本の誇る天才的構造家であり、学者であり、指導者であった先生の死は、惜しみても余りある痛恨事である。偉大な先達を失ったことは、構造界にとって極めて残念で、その損失は計り知れない。

今回で第6回を迎えることになった構造家を讃える「松井源吾賞」は、審査員全員の一致した意向によって、スイスの構造家、ハインツ・イスラー氏と、日本の新谷眞人氏に決定し、それぞれ受賞を受けていただくことになった。このような立派な方々を選ぶことは遺志に沿うもので、「松井源吾賞」の誇りであり、審査員全員の名誉であると考える。

選考に当たり、多くの作品が寄せられた中で、共通して構造が建築作品の質を決定づけていることに、改めて感銘を受けた。その成果は、正に構造的建築家を称賛するに値する内容であったことに喜びを禁じ得ない。松井先生が日ごろ指摘されていた構造家の任務をそれぞれ的確に示した作品であり、業績であった。

今年完成した数多くの応募作品を見て、選考の過程で問題となったことは、構造がコンピュータによって、極めて自由に解析できるようになった反面、容易さも目立ち、本来の技術の果たす役割や謙虚さ、合理性や堅実さ、などがややもすると失われ兼ねない点が指摘された。そんな中で、新谷氏の作品は、格調高い禁欲的な構造システムを提示し、新しいあり方に示唆を与えられた。

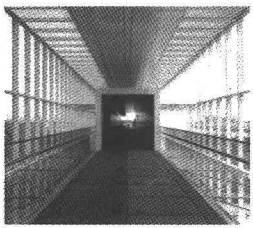
それにつけても「論文は短いほどよい」と日ごろからいわれ、その前例として、松井先生は国際シェル学会のことを話しておられたが、奇しくも、公式とその応用というたった2枚の論文を出されたのが、当時27才のこのイスラー氏であったとは驚きで、私は松井先生と不思議な因縁であると思わずにはいられない。この世界的構造家の数々の作品業績を巡り、現代建築を育んだRC造の究極の美に、ひたることの喜びにふれ、その栄誉をこころから讃えたいと思う。

受賞者：新谷眞人／受賞対象：「葛西臨海公園展望広場レストハウスの構造設計」

Masato Araya

●経歴

1943年　東京都に生まれる
1969年　早稲田大学大学院修士課程修了
　　木村俊彦構造設計事務所に入社
　　広尾タワーズ・ホームズなどの構造設計に従事
1971年　梓設計に入社
　　航空関連施設、海外プロジェクトの設計に参加
1982年　オーク設計事務所を設立
　　エンジニアパートナーとして活動
1995年　オーク構造設計を設立
1996年　KSP取締役に就任
現在　　オーク構造設計代表取締役
　　KSP取締役



葛西臨海公園レストハウス〈内部〉

●主な作品

1975年　日本航空大型ハンガー
1980年　サウジアラビア王立電子工科大学
1988年　芙蓉ビル（設計　渡辺武信）
1989年　コナビレッジ（設計　長谷川逸子）
1990年　RHJ日本リサーチセンター（設計　鳥巣元太）
1991年　高知県立青少年体育館（設計　上田堯世）
1992年　松山ITMビル（設計　伊東豊雄）
1994年　瀬戸田統合小学校（設計　幡谷純一）
1995年　陽光ビル（設計　城戸崎和佐）
　　葛西臨海公園展望広場レストハウス（設計　谷口吉生）

受賞者：ハインツ・イスラー／受賞対象：「シェル構造の発展に関する一連の業績」

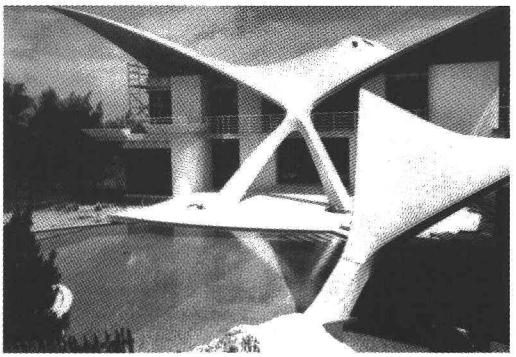
Heinz Isler

●経歴

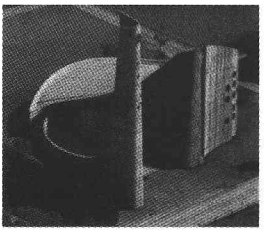
1926年　チューリッヒに生まれる
1950年　チューリッヒ工科大学土木工学科卒業
1951-53年　同大学助手
1954年　構造設計事務所開設
1959年　IASS会員　現在に至る
1983年　ドイツ・カールスルーエ大学名誉教授
　　チューリッヒ工科大学工学博士
1994年　IASS坪井賞受賞
1995年　IASS名誉会員
現在　　構造設計事務所代表

●主な作品

1968年　ロミスヴィルの教会（設計　ハンゼルマンおよびH.イスラー）
　　デイティンゲンのガソリンスタンド（設計　H.イスラー）
1971年　カモリノのガーデンセンター“ビュルギ”（設計　H.イスラー）
1988年　ジュネーヴの別荘（設計　P.A.カモレッティ）



ジュネーヴの別荘　1988



ロミスヴィルの教会　1968

構造家アラカルト

葛西臨海公園展望第6回松井源吾賞を受賞

新谷眞人
あらやまさと

デザイン能力に限界を感じ構造デザインに進む

――はじめに建築に進まれた理由についてお聞かせ下さい。

新谷　漠然としていましたが、高校1年の時には建築関係に進みたいと考えていました。祖父が大工であったことも影響したかも知れません。そのため大学受験のときは建築学科だけを受け、浪人をするはめになりました。大学に入ってからは、誰でもそうだと思いますが、やはり建築デザインをやりたいと思っていました。3年になって、エスキースの課題が増えてくると、デザイン能力に秀れた人がまわりに多く、これはだめだと思い、数学はきらいではなかったので、数学を生かせる構造を選びました。松井源吾先生の講義は面白く、構造設計をやろうと思ったのです。

学部では三次元シェルの光弾性実験を、大学院では風の研究を行なう

――卒業論文は何をテーマに研究されましたか。

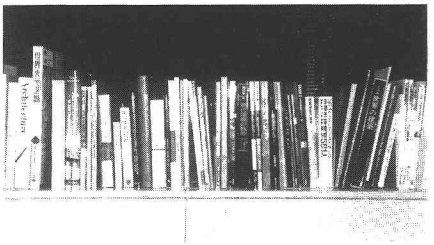
新谷　学部のときは松井先生の指導でライズが高いHPシェルの研究を、光弾性の模型を作って研究しました。模型はエポキシ樹脂で、ライズの低い場合は平板を加熱して曲げればできますが、ライズの高い場合は、リブのついた鋳型を作るのです。30cm角の模型を苦心して作ったのですが、いびつであり、光弾性の実験は結果としてうまくいきませんでした。卒論は、数式を主体としたシェルの解析を行ないました。

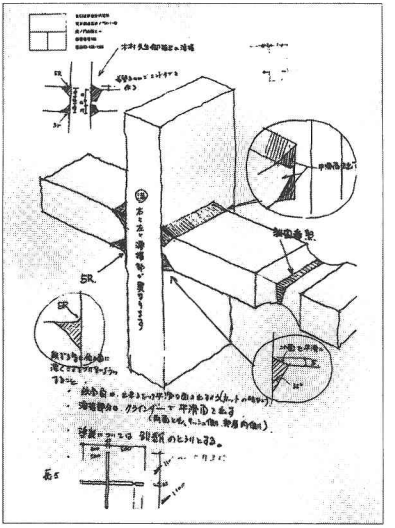
大学院に進んでからは、光弾性にこりて、風の研究をやりました。当時は風の研究が日本でも盛んになりつつあり、超高層ビルの設計でも風洞実験をやるようになりました。松井先生は、早稲田大学理工学部18階建研究棟の構造設計を担当されましたが、風の測定のために自費でイギリスから風圧計を8セットほど購入され、理工学部の表側と裏側に取り付けました。それまでは、速度を測定し風圧に換算していましたが、その機器は風圧を直接測定するものでした。台風だけでなく春の季

経　歴
1943年　東京都生まれ
1969年　早稲田大学大学院修士課程修了（松井研究室）
1969年　㈱木村俊彦構造設計事務所入社
1971年　㈱梓設計入社
1982年　㈱オーク設計事務所設立、エンジニアパートナーとして活動
1993年　㈱オーク構造設計設立
現　在　㈱オーク構造設計代表取締役
　　㈱KSP取締役

業　績
1996年　第6回松井源吾賞を受賞

広場レストハウスで





節風を長時間にわたって測定しました。当時はアナログ計で測定された波形から自分で数値を読み取り、デジタル化するのです。観測点も多く、膨大なデータを自分で打ち込み、スペクトル解析を行ないました。早大の大型コンピュータを使用しましたが、時々東大の計算センターを利用しました。今ではデジタル読み取機があり、だいぶ楽になっていますが、当時は大変な作業であり、スペクトル解析のプログラムも自分達で作りました。実測とは別に、確率値である外乱・応答を独立変数とする確率微分方程式によって、外乱と応答の確率的な関係を求める研究も行ないました。研究テーマは「風圧力に関する統計学的研究」です。

卒業と同時に㈱木村俊彦構造設計事務所に入社

――卒業後のことをお聞かせ下さい。

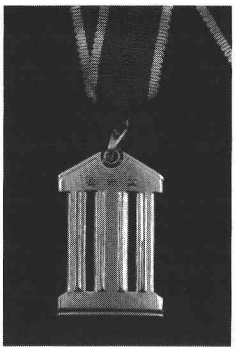
新谷　卒業後木村俊彦先生の事務所に入りました。木村先生のところでは学ぶことが多かったといえます。教育というよりいきなり実践できたえられました。最初は、学校でコンピュータをやっていたというので、エラプラ法(Elastic Plastic法)という弾塑性解析のプログラムの作成に協力しました。エラプラ法というのは、ガンマ・ファイ法といいまして、ガンマはせん断系、ファイは曲げ系で曲げとせん断を分離して解析し、さらに合成する方法で住友童話館の解析に使用したものですが、このガンマ・ファイ法を振動系に発展させたものでユニークな振動解析法といえます。このプログラムを使って、槇文彦先生の広尾のマンションを設計し、日本建築センターの評定を受けたこともあります。その他、篠原一男先生の一連のシリーズである壁式構造による個人住宅の設計もしました。その当時の私は、この作品のデザイン的な位置づけも知らず、壁式構造の計算をやっていましたけれど、篠原先生はこのシリーズで建築学会賞を受賞されました。

梓設計で航空関連施設や海外プロジェクトを手がける

新谷　木村先生のところには1年8か月お世話になりましたが、その後大手の組織事務所である梓設計に移りました。梓設計で一番初めにやった仕事は羽田にある既存の航空機の格納庫の大屋根の一部が沈下したので、その原因調査と補強設計でした。原因は近くの高速道路工事で地下水を汲み上げたことによって摩擦杭の一部が不同沈下したためでした。沈下した屋根をジャッキアップして補強を行ないました。この建物はすでに取り壊し、今は建っていないようです。その他、海外の業務としてサウジアラビア王立電子工科大学のプロジェクトが印象に残っています。当時は1US$300円で、外貨の持出しは5,000$以下に限られていました。

10. 第7回松井源吾賞

―― (97.6.3　リーガロイヤルホテル) ――



松井源吾記念会

受賞者への業績評

菊竹清訓 (選考委員代表・建築家)

この度、「フジテレビ本社ビル」の構造計画を担当されました京都大学名誉教授であり、小堀鐸二研究所代表取締役であり、鹿島建設最高技術顧問である小堀鐸二先生に、松井源吾賞を贈呈することに決定した。審査員一同の全員一致した決定である。

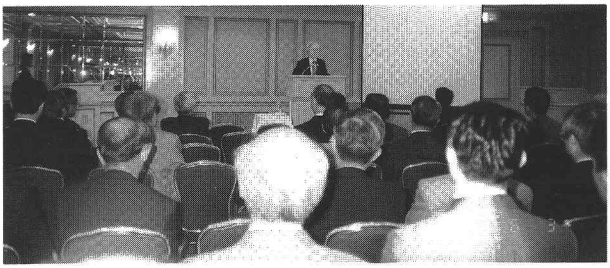
メガストラクチャーという構造の考え方と丹下健三・都市・建築設計研究所との息の合った造形的処理の見事さは抜群であり、わが国の地震多発地帯で、かつ埋立地という立地条件をこえるものとして考えられた、この構造的解決は、これまでになかった新しい解決として、他の模範となる内容をもち、その意味で高い評価が得られるものと考える。

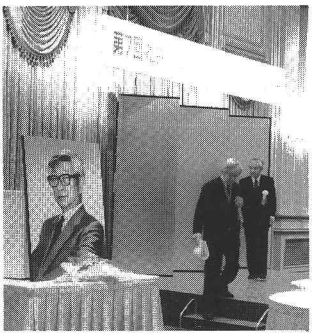
とくに嬉しいことは、日本建築学会の会長を務められており、また松井源吾先生と親しい関係にあり、大学は同門でも研究生活は早稲田大学と京都大学に分かれて活動という相違はあるが、何といっても柔構造理論の棚橋諒先生のもとで研鑽をつまれて、わが国の構造界における剛構造から柔構造への大転換期に重要な役割を担われることとなった。このことが数々の受賞に結びつき、学者として高い評価を受けられることになったものと思われる。

また最近、江戸東京博物館の計画において、メガストラクチャーとして、わが国で初めて、地震に対して、上下方向振動の実験的研究を進められ、メガストラクチャーの実現に新しい道を拓かれるとともに、そのための制震装置の開発指導

をされるなど、非凡な天分を発揮されて、より新しい構造の実現に寄与された。これが今回の受賞となった「フジテレビ本社ビル」の大胆なメガストラクチャーの背景になったものと考えられ、松井先生への協力が新しい構造の展開につながっていったと想像する。

このように優れたわが国を代表する構造家であり、教育者であり、指導者であり、研究者であり、学者であり、造形家でもある稀有な能力を発揮されている小堀先生に松井源吾賞を差し上げることになったのは、この賞にとって、まことに名誉この上ないと同時に、審査員一同誇らかに喜びを共にする次第である。今後も構造と造形の調和した計画が、わが国で進んでいくとき、小堀先生の存在はいよいよ大きくなると思われる。その偉大さを讃え、先生のご活躍をお祈りし、松井源吾賞の贈呈となったことを記念し、挨拶とさせていただきたい。





受賞者：小堀鐸二／受賞対象：「フジテレビ本社ビル」
Takuji kobori

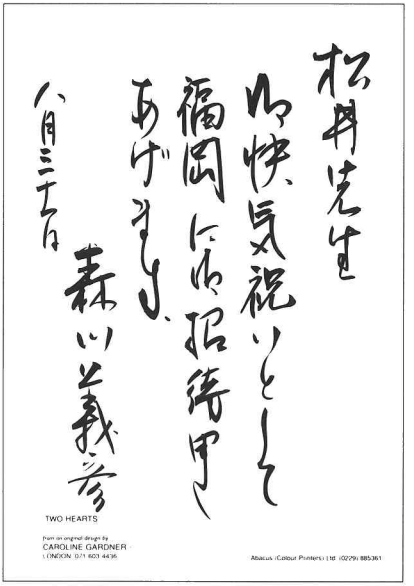
●経歴
1920年　11月15日生まれ
1945年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
1954年　京都大学助教授
1962年　京都大学教授
1984年～現在　京都大学名誉教授
1986年～現在　(株)小堀鐸二研究所代表取締役

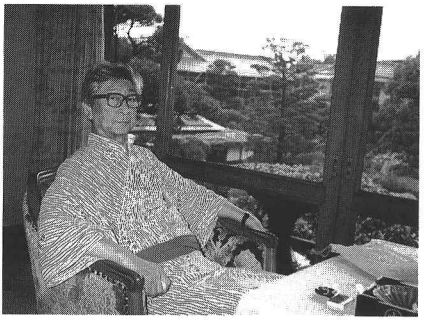
●職歴
1970年～85年　建設省建築技術審査委員会委員、高層部会長
1981年～85年　日本学術会議会員(第12期)
1983年～84年　日本建築学会会長
1987年～92年　日本工学アカデミー理事
1988年～現在　日本建築学会名誉会員
1988年～96年　国際地震工学会理事
1996年～現在　国際構造制御学会(IASC)会長
　　国際地震工学会(IAEE)名誉会員

●受賞
1959年　日本建築学会賞
1990年　日本建築学会大賞

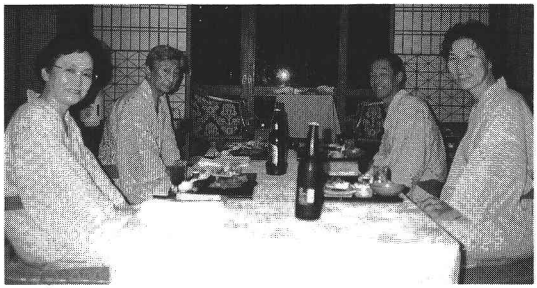
11. 九州旅行

―― (95.9.22～24) ――

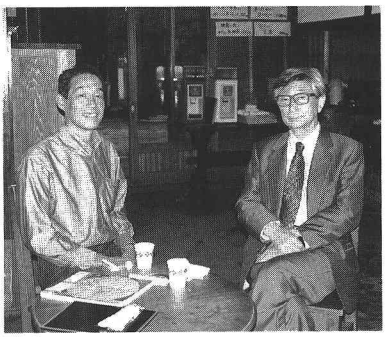


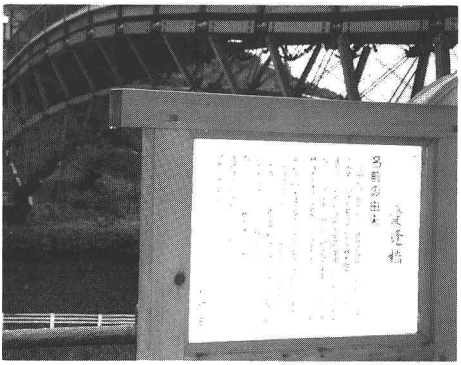


二日市温泉

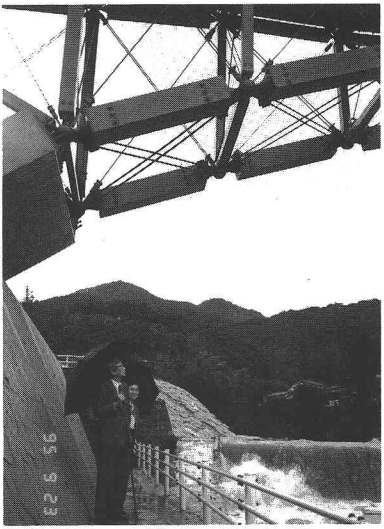


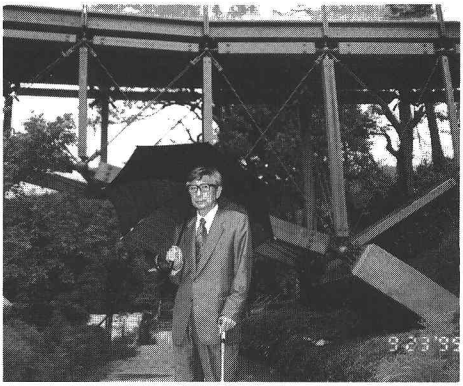
福岡山口酒造にて

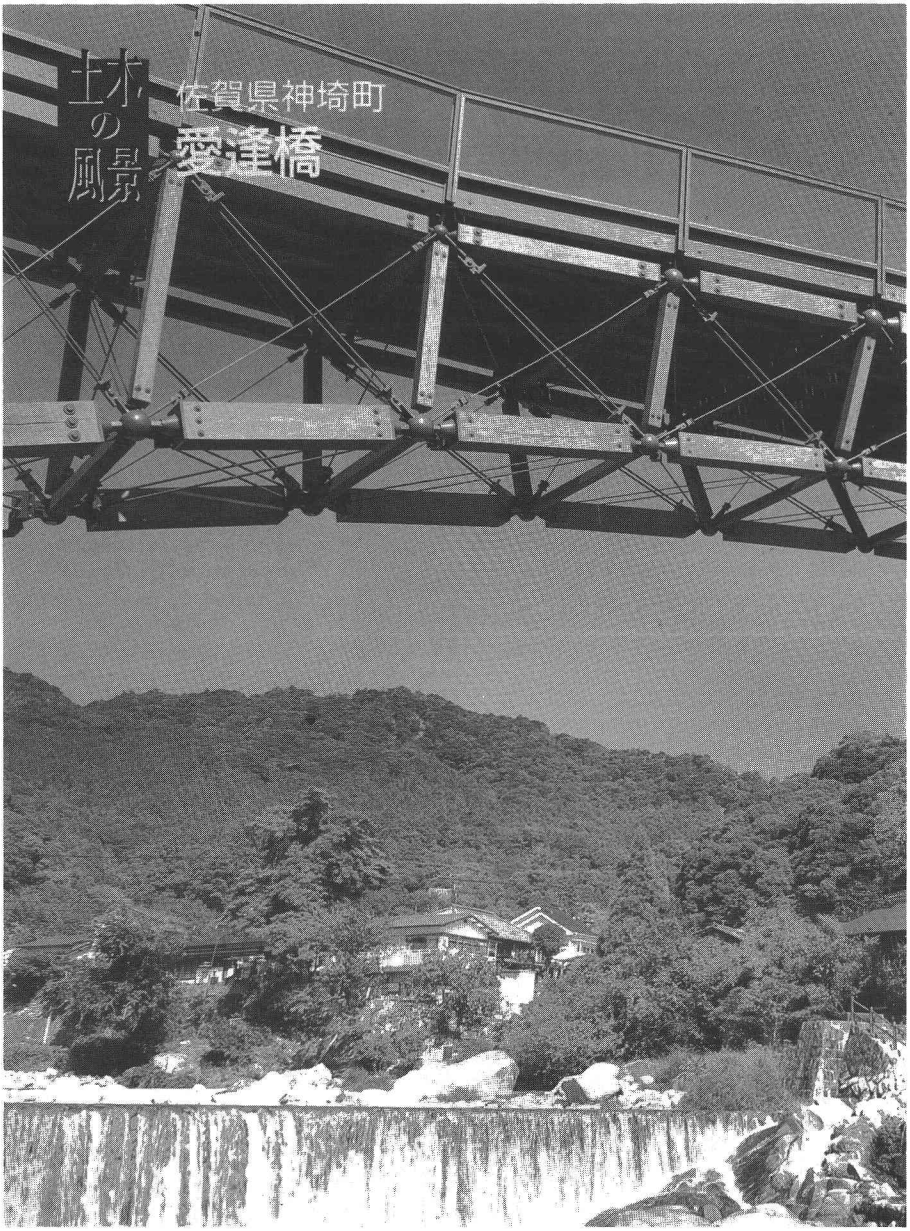


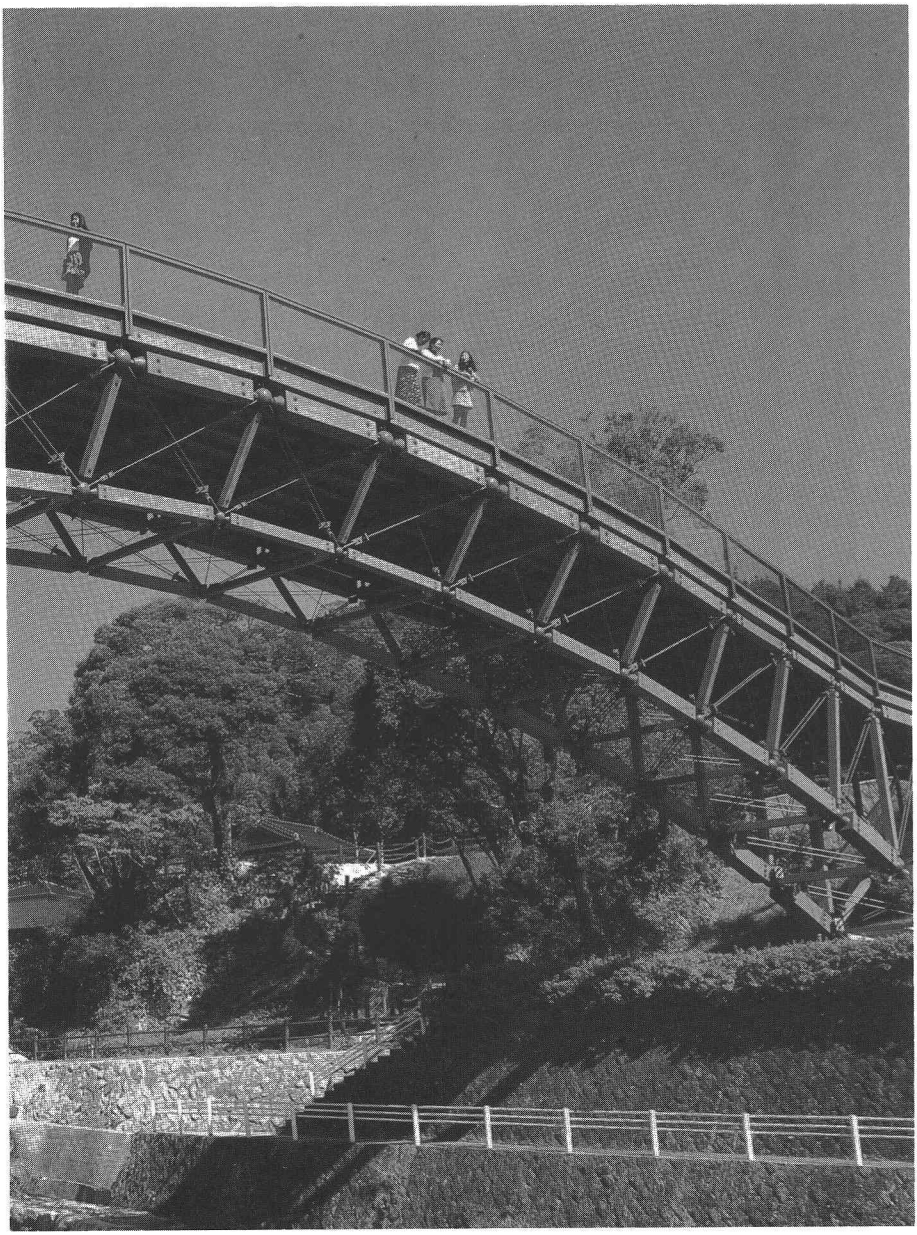


佐賀県神埼町仁比山公園
木造の橋“愛逢橋”






土木の風景
佐賀県神埼町
愛達橋



「日経コンストラクション」より

さかえ鮨

福岡銀行本店

西鉄グランドホテル

福岡県庁

志賀島

12．１月３日

平成７年12月20日
松井源吾記念会

松井源吾先生のご結婚をお祝いする会のご案内

拝啓　今年も残り少なくなりました。
皆様にはご健勝のこととお慶びを申し上げます。
さて、先に松井先生からお葉書が届いていると思いますが、この度、伊沢政枝様とご結婚なされました。つきましては、下記のようにお祝いの会を開きます。皆でお祝いをしたいと思いますので、ぜひご出席下さいますようご案内いたします。　　敬具

記

日時　平成８年１月３日　午後３時～５時
場所　都ホテル東京　アスカの間
港区白金台1-1-50
TEL 03-3447-3111

尚、準備の都合がございますので折り返し（至急）ご返事を頂きたく存じます。

田中先生達が、このような計画をたてて下さり、出席される方々の名簿も見せて頂いて本人は出席するつもりで、酸素つき車椅子などを借りて楽しみにしていました。私は出かけるのは無理ではないかと思わざるを得ないような一進一退の毎日でした。

前日のキャンセルで、お正月ということもあり連絡がつかなかった方、また地方の方は会があってもなくてもと出かけて下さいました。

“何時からだった？”等と準備を始め、看護婦さんに15分前に点滴を止めて下さいと、甥の丸山東さんに司会をするように等と病院のパレスホテルのオアシスに出かけました。

皆さんに「お別れの挨拶を」等と始まり、私のことを紹介して、乾杯したものです。

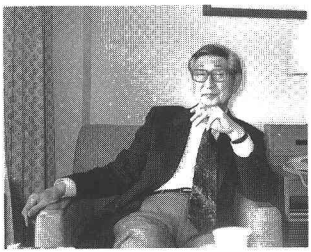
政　枝

13. 最近のアルバム—その 2—

第 1 回松井源吾賞
(91.6.1
ホテルオークラ)

都ホテル
(94.1.9)

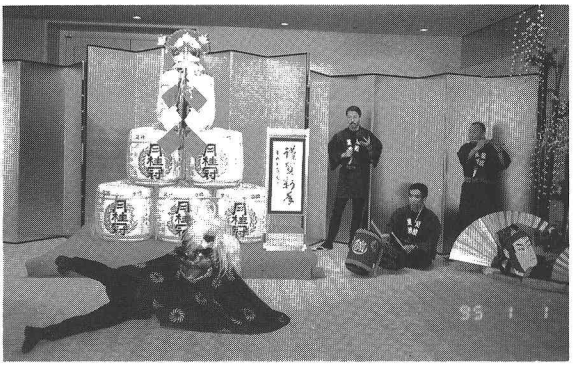
都ホテル (94.2.14)



94 年 4 月肺気腫と言
われ禁煙する
(94.1.23　都ホテル)

熱海ホテルニューアカオ　赤尾会長と
(94.3.22)

早稲田専門学校 30 周年　早大井深記念ホール　(94.7.16　鈴木恂先生より)



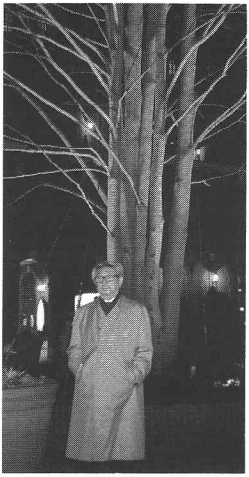
都ホテル（95.1.1）

94.11.17

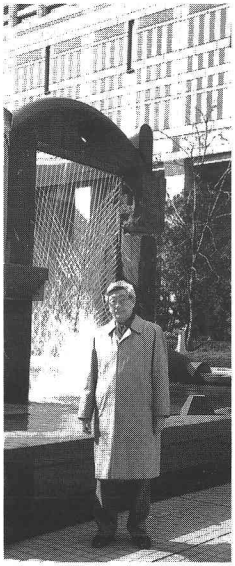
都ホテル（95.1.1）

都ホテル（95.1.2）

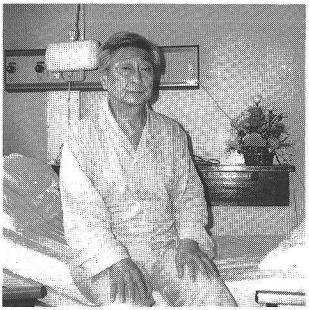
明治神宮（95.1.15）



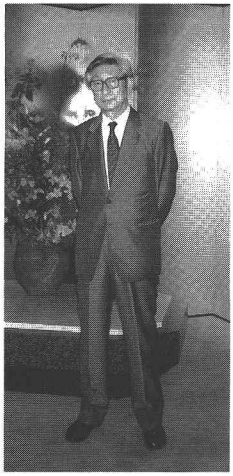
恵比須ガーデンプレイス
(95.1.15)



都庁前（95.3.21）



第５回松井源吾賞会場へ病院より（95.6.1
リーガロイヤルホテル）



75 歳の誕生日（95.6.3
都ホテル）

慶応病院　病室にて（95.5.25）

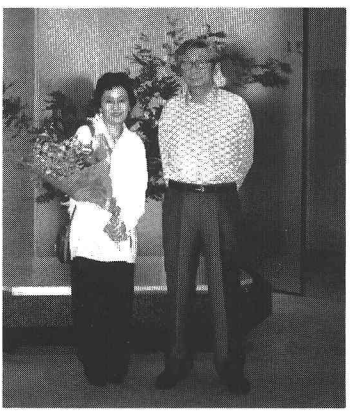
病室にて
(95.6.3)

都ホテル（95.6.3）

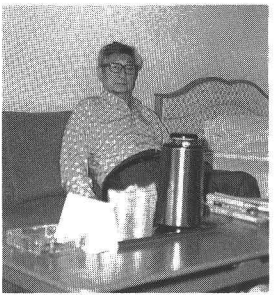
病室にて（95.6.11）

手術前日
(95.6.15)

執刀医小林教授と退院前日（95.7.5）

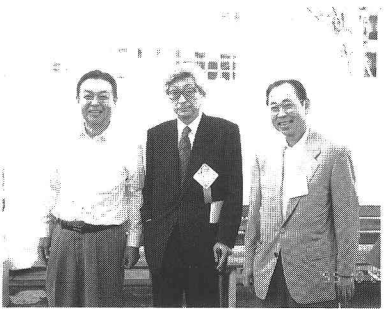


都ホテル（95.7.7）



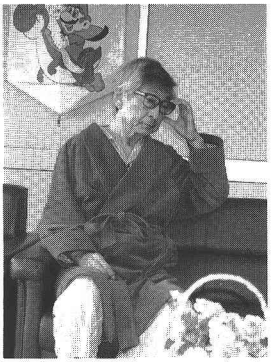
都ホテル（95.7.17）

都ホテル
(95.10.8)



合同早苗会（95.10.21）

病室にて（95.11.29）



病院ロビーにて

病院ロビーから外苑会館を望む

堤さんからのハガキ

慶応病院ロビー
(95.11.29)
遠藤さんより

慶応病院ロビー　住吉さん御見舞（95.12.21）

あいさつ――「あとがき」にかえて――

縁というものなのでしょうか。今振り返ると不思議な気がいたします。私の両親も佐渡真野町出身で、私も疎開をして真野小学校に5年間通っていました。松井は、大先輩であり、同窓生ということになります。弟も佐渡の生まれで松井研で御世話になり、91年の退職時に博士号を頂きました。弟の恩師という気持で東京の真野人会等でお目にかかっていました。

93年に「東京卒業」と言って佐渡に帰りましても東京に何かと用事があり、行ったり来たりの生活でしたが、疲れたということもなく、とても元気でした。

94年4月に肺気腫と言われ、煙草を止めました。佐渡の冬の寒さは厳しく、よく風邪をひいては東京に出てくると治るという感じでした。

95年3月に撮ったレントゲンで影が見つかり、本人には4月に知らされましたが、ベッド待ちという手術までの3カ月間に、影はどんどん大きくなり3倍にもなっていました。高齢者の進行が遅いという説はあてはまりませんでした。

6月16日に右肺上部3分の1を切除する7時間の大手術に耐え、順調のように思えた7月6日の退院でした。この頃“生きてて良かった”と言っていた言葉が今でも耳から離れません。大変な経験だったことと、精一杯の嬉しさの表現だったのだと思います。その後も、「癌」という言葉は一度も口にしませんでしたが、本当はどう思っていたのでしょうか。

毎週のように通院していましたが、8月には同じ肺の腕側に影が見つかり、CTも、MRIも、注射針で液を抜く検査もいたしました。癌性のものではないと言われましたので安心していましたが、いっこうに良くならず、10月には腕が、11月には腰も痛いと訴え、あまりの痛さに入院して調べることにな

り、11月14日に再入院、検査で転移であるらしいと告げられました。信じられないほどの進行、転移の速さにどうすることもできませんでした。何物にも代えがたい人の命を、現代の医学でも救えないことに対し、ただただ儚さを感じています。

第4回、第5回の松井賞の席で何となく、私のことを話してくれていたようでしたが、さぞ皆さんもびっくりなさったことと思います。

亡くなる10日くらい前の大晦日に、縞22号の原稿の整理をベッドの上で進めていました。以前、縞を作ることについて“生きていることを知らせるので続けているんだ”と言っていました。いつまでも続けたかったことと思います。

人生の先輩として、生き方や人に対する至誠、性格等、尊敬することが多々ありました。2年3カ月の生活のうち、10カ月は病との闘いでした。

「もっと早く結婚すればよかった。もっと楽しみたかった」という最後の言葉を残して逝ってしまいました。生前、縞を手伝うように言われていましたので私に託したものと思い、どうしても完成させなくてはと思う気持が焦るばかりで、「いつまでかかっているの？」と言う声が天から聞こえそうです。

何とかここにまとめ終え、墓前に捧げることができますのも、皆様方のお力添えの賜物と感謝の気持でいっぱいです。ありがとうございました。

1997年8月

松井　政枝

著者略歴

1920年６月　佐渡に生る
1943年９月　早稲田大学理工学部
　　　　　　建築学科卒業
1948年12月　早稲田大学専任講師
1952年４月　同助教授
1960年１月　工学博士
1961年４月　早稲田大学教授
1968年５月　日本建築学会賞(作品)
1990年６月　日本光弾性学会賞
1991年４月　早稲田大学名誉教授
1993年５月　日本建築学会賞(業績)

1995年6月8日／建築会館にて

論文が出来そうで考えているときが
もっとも幸福なとき

源

縞－その22－　　　　非売品

発　行　1998年４月　©

編著者　松井源吾＋松井政枝
〒171-0022　東京都豊島区南池袋
2-36-1
電　話　03（3984）2747

製　作　株式会社　土木春秋社
〒151-0053　東京都渋谷区代々木
2-26-５
電　話　03（3370）5020